Operation Guide 3138

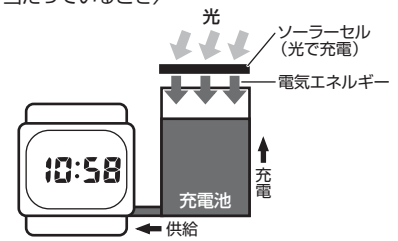
CASIO

十分に光を当ててご使用ください

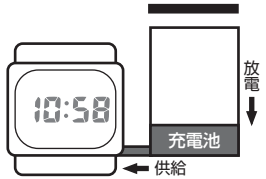
本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

●光が当たっているときと当たらないとき

〈光が当たっているとき〉



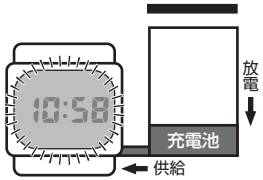
〈光が当たっていないとき〉



時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは充電池の容量が減って機能が使えなくなります。

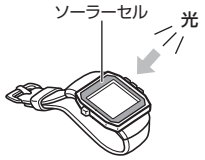
●ライト（表示用照明）をたくさん使うと

ライトを多用すると充電池の容量は早く減ります。



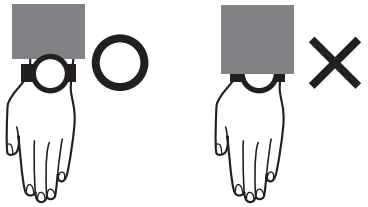
●時計に光が当たるようにしましょう

- 充電池の容量が減ってくると機能に制限がかかります。機能を正しくお使いいただくために、光を当てて充電を心掛けてください。
- 腕から外したときは表示面（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



蛍光灯下や窓際などの光が当たる所に置いてください。

- 腕に付けているときはなるべく袖が表示面（ソーラーセル）にかからないように使用してください。



一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

液晶表示について

製品によって、液晶表示のタイプが異なります。
なお、記載しているイラストは、視認性を考慮して「白地に黒」で描写しております。ご使用になる製品によっては、記載しているイラストの黒い部分（「時刻」、「機能がONになっているときに点灯するインジケーターやマーク」など）が、「白または他の色で表示される」と置き換えてご覧ください。

※液晶表示のタイプは製品によって決まっているため、1つの製品でタイプを切り替えることはできません。

<Aタイプ>



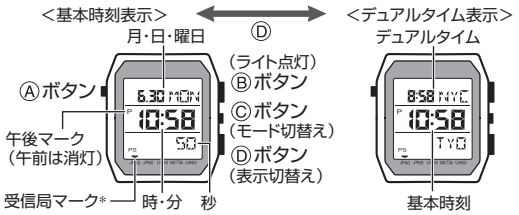
<Bタイプ>



操作のしくみと表示の見方

Ⓒ ボタンを押すごとに、以下の順でモードが切り替わります。
※アラームモード、電波モードのまま２～３分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。

時刻モード

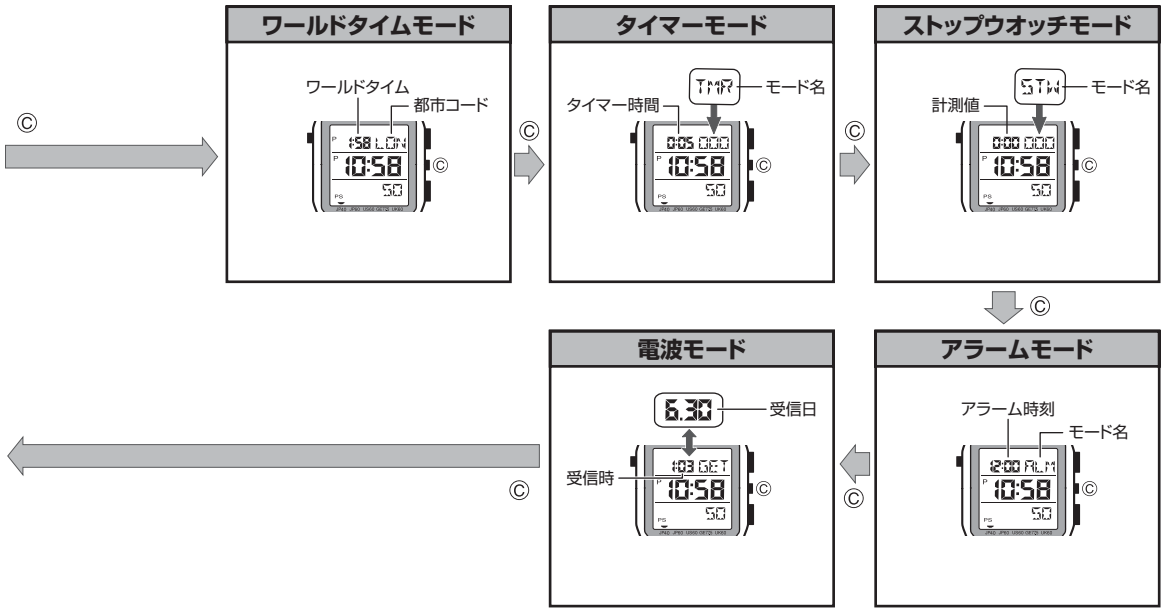


★表示切替えについて
Ⓓボタンを押すごとに、「基本時刻表示」と「デュアルタイム表示」とが切り替わります。

★デュアルタイムについて
デュアルタイムとは、現在時刻とは別に海外時刻などもう1つの時刻をセットできる機能です。
※ 基本時刻とデュアルタイムを入れ替えることができます（「基本時刻とデュアルタイムの入替え」参照）。

SUN：日	MON：月	TUE：火
WED：水	THU：木	FRI：金
SAT：土		

＊ 受信局マークについては、「受信マーク」を参照。



電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。

二次電池が消耗して時計機能が停止すると、メモリーされているデータや設定は消去されます。

●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- EL バックライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- タイマーのタイムアップ報音
- 電波受信

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



リカバーマーク

●充電必要サイン

二次電池が消耗してくると、一部の機能に制限がかかり、時刻モードのときに（デュアルタイム表示のときは基本時刻表示になります）“LOW” が点滅します。
さらに電池の消耗が進むと、制限される機能が増え、“CHG” が点滅します。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。
また、頻繁にリカバーマークが点滅する場合も電池容量が少なくなっていますので光を当てて充電してください。

表示の状態	制限される主な機能
<時刻モードのとき> LOW	EL点灯不可、 アラーム・時報などの報音不可、 タイマーのタイムアップ報音不可、 電波受信不可
CHG	液晶表示不可、EL点灯不可、 アラーム・時報などの報音不可、 タイマーのタイムアップ報音不可、 電波受信不可

※二次電池が完全に消耗すると、すべての表示が消灯し、時計機能も停止しますが、再度充電を行なうことで使用できるようになります。
※二次電池が完全に消耗した状態から充電したときは、充電中に “CHG” の点滅とともに表示が点灯しますが、この状態では機能が使用できません。“CHG” の点滅が消えるまで、十分に光を当ててからご使用ください。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。
- 炎天下に駐車中の車のダッシュボード
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

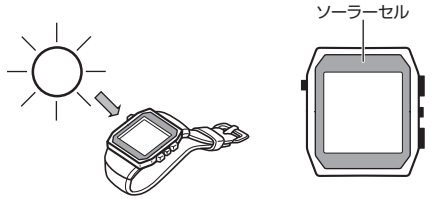
なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますので、ご注意ください。

例）時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作*に加え、下記の使用例で使用した場合に約9ヵ月動き続けます。

使用例
- ライト：1.5 秒間／日
- アラーム：10秒／日
- 電波受信：10 分／日
- 表示点灯：18 時間／日

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理のことです。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約8分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約30分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

●各段階に回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間	
	充電サイン消灯	➡ フル充電
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約2時間	約41時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約6時間	約156時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約9時間	約252時間
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約93時間	― ― ―

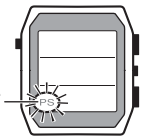
※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」を ON に設定してあります。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
  午後 10 時～午前 6 時の間、暗いところで本機を約 1 時間放置します。
  ➡液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
  アラーム・時報の報音は行ないます。
  ※ タイマーモード、ストップウオッチモードのときは、スリープ状態になりません。



- 機能スリープ
  表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
  ➡パワーセービングマークが点滅から点灯にかわります。
  アラーム・時報の報音は行ないません。
  電波の自動受信は行ないません。
  ※ 時計機能は正常に作動しています。

●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置くか、いずれかのボタンを押します。
※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大 2 秒かかる場合があります。

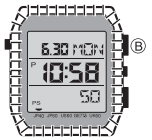
●パワーセービング機能のON／OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには「セットのしかた」をご覧になり、パワーセービング機能をOFFにしてください。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

ライト点灯について

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、Ⓑ ボタンを押すとライトが点灯し、暗いところでも時刻を見ることができます。



※直射日光下ではライト点灯が見えにくくなります。
※ライト点灯中にいずれかのボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと点灯を中断します。
※手動受信中はライトは点灯しません。
※ライト点灯中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これはELパネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。

操作音について

モード切替時などに鳴る操作音のON／OFFを切り替えることができます。

■操作音の ON ／ OFF 設定

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも

Ⓒ ボタンを約3秒間押し続けます

➡確認音が鳴り、操作音のON／OFFが切り替わります。
※操作音を OFF にしているときは、MUTEマークが点灯します。
※ Ⓒ ボタンを押したときに、モードも切り替わりますので、ご注意ください。
※操作音がOFFでも、アラーム音、時報音、タイマーのタイムアップ音は鳴ります。



電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

■ 標準電波

●日本の標準電波（JJY）は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所（60kHz）」から送信されています。

●アメリカの標準電波（WWVB）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州にあるフォートコリンズから送信されています。

●イギリスの標準電波（MSF）はNational Physical Laboratory（NPL）が運用しており、イングランド北部のアンソーンから送信されています。

●ドイツの標準電波（ＤＣＦ７７）はＰｈｙｓｉｋａｌｉｓｃｈ-Technische Bundesanstalt（PTB）が運用しており、フランクフルト南東に位置するマインフリンゲンから送信されています。

※標準電波や送信所に関する情報は、変更になる場合があります。

日本の正確な時刻情報をのせた標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）日本標準時グループが運用しております。
この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。
詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）日本標準時グループのホームページをご覧ください。

http://jjy.nict.go.jp

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

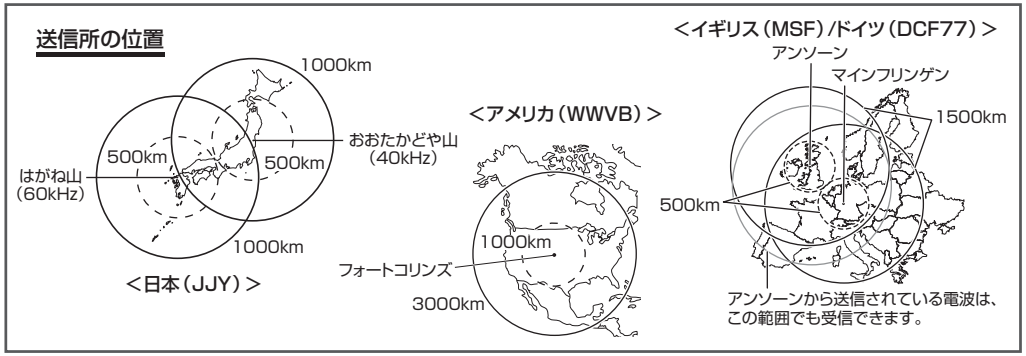
■ 電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイム都市を下記のように設定すると、その都市に対応した標準電波を受信します。

＊ ホームタイム都市の設定については「セットのしかた」参照。都市コードについては「都市コード一覧」参照。

ホームタイム都市（受信機能対応都市）	受信電波
TYO、SEL、TPE、BJS、HKG	日本の標準電波（JJY）
HNL、ANC、YVR、LAX、YEA、DEN、MEX、YWG、CHI、MIA、YTO、NYC、YHZ、YYT	アメリカの標準電波（WWVB）
LIS、LON、MAD、PAR、ROM、BER、STO、ATH、MOW	イギリスの標準電波（MSF）、ドイツの標準電波（DCF77）

※BJS、HKG、HNL、ANC、MOW の各都市は、受信機能対応都市としています。条件が良ければ受信する場合もあります。

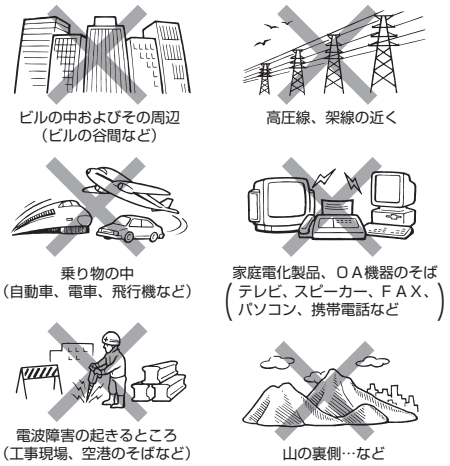


●受信環境により、図の範囲内でも電波を受信できない場合があります。内側の円の範囲を越えると電波が弱くなりますので、受信環境の影響はより大きくなります。
※受信に影響を与える環境・・・地形、建物、天気、季節、時間帯（昼、夜）、各種ノイズ

■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

受信方法には、以下の２種類があります。

1 自動受信 １日最大６回（午前12・1・2・3・4・5時に自動受信します）
2 手動受信（ボタンを押して手動受信します）

※１日１回受信が成功すれば、その日の自動受信は行ないません。

※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。
ただし、BJS、HKG、HNL、ANC、MOW の各都市は自動受信の設定が OFF にセットされています。
＊自動受信の設定は「自動受信 ON ／ OFF の設定」を参照。

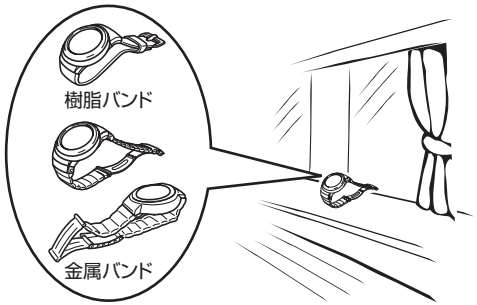
※自動受信は、基本時刻（「操作のしくみと表示の見方」参照）が上記の時刻になると受信を行ないます。

※設定したホームタイム都市やサマータイム設定によって、自動受信の開始時刻が異なります。

ホームタイム都市		自動受信開始時刻					
		1	2	3	4	5	6
TYO、SEL、TPE、BJS、HKG	通常時刻	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
HNL、ANC、YVR、LAX、YEA、DEN、MEX、YWG、CHI、MIA、YTO、NYC、YHZ、YYT	通常時刻 サマータイム	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
LIS、LON	通常時刻	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時
	サマータイム	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
MAD、PAR、ROM、BER、STO	通常時刻	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
	サマータイム	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
ATH	通常時刻	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
	サマータイム	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時
MOW	通常時刻	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時
	サマータイム	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時	午前4時

●受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



●時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
●受信中、時計を動かさないようにしてください。

●受信時間は？

受信時間はおよそ１～７分です。
※ただし、周波数を変えて再受信するため、最大13分かかる場合があります。
* 自動受信ON／OFFの設定については「自動受信ON／OFFの設定」参照。

●手動受信

時刻モードのときに Ⓒ ボタンを５回押して、電波モードにします。

Ⓓボタンを約2秒間押し続けます



➡“RC”が表示され、受信を開始します。
※受信中は、受信状態のレベル表示（「受信状態のレベル表示」参照）が変化し、受信している電波の受信局マーク（「受信局マーク」参照）が点滅します。

★受信を中止するときは

Ⓓ ボタンを押します

※手動受信中は Ⓓ ボタン以外の操作はできません。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、修正日時を表示します。
※修正日時表示後は、Ⓒ ボタンを押すか、２～３分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

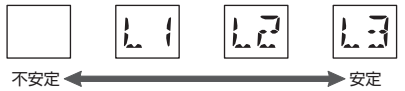
★受信が失敗すると（ERR表示）

時刻修正は行なわれず、“ERR”を表示します。
※“ERR”表示後は、Ⓒ ボタンを押すか、２～３分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

●受信状態のレベル表示

受信中は受信状態によってレベル表示が変化します。
安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。





※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

●受信状態のレベル表示は、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
●天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

●受信局マーク

受信中は受信している電波の受信局マークが点滅します。
※受信成功後は受信した電波の受信局マークが点灯します。受信局マークは、翌日の自動受信開始時刻の第１回目に（「受信方法について」参照）に消えます。



JP40　= おおたかどや山（日本）
JP60　= はがね山（日本）
US60　= フォートコリンズ（アメリカ）
GE77.5 = マインフリンゲン（ドイツ）
UK60　= アンソーン（イギリス）

●受信日時の確認

時刻モードのときに Ⓒ ボタンを５回押して、電波モードにします。
➡受信により最後に修正した月日と時分を表示します。
※受信日と受信時は2秒ごとに切り替わって表示されます。
※一度も受信に成功しなかったときは、“－ － －”を表示します。
※時刻モードに戻すには、もう一度 Ⓒ ボタンを押します。
※何も操作をしないと、2～3分後時刻モードに戻ります。



■自動受信ON／OFFの設定

自動受信をOFFにすると、電波の自動受信をさせなくすることができます。
※ホームタイム都市を受信機能対応都市に設定していると、自動受信ON／OFFの設定を行なうことができます。
* 受信機能対応都市については、「電波の受信範囲の目安」参照。

1. 電波モードにする

時刻モードのとき

Ⓒ ボタンを５回押します



➡受信日時を表示します。
※ 何も操作をしないと、2～3 分後時刻モードに戻ります。

2. セット状態にする

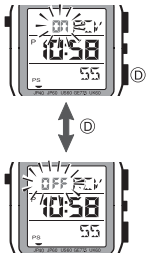
Ⓐ ボタンを押します



➡ON または OFF が点滅します。

3. セットする

Ⓓ ボタンを押します



➡ON と OFF が切り替わります。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します



➡点滅が止まり、受信日時表示に戻ります。
※ 時刻モードに戻すには、Ⓒ ボタンを押します。
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

★自動受信をONにすると…

● ホームタイム都市がTYO、SEL、TPE、BJS、HKGの場合 自動受信はONになり、「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」と「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。 ※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。
●ホームタイム都市がHNL、ANC、YVR、LAX、YEA、DEN、MEX、YWG、CHI、MIA、YTO、NYC、YHZ、YYTの場合 自動受信はONになり、アメリカのフォートコリンズからの電波を受信します。
●ホームタイム都市がLIS、LON、MAD、PAR、ROM、BER、STO、ATH、MOWの場合 自動受信はONになり、イギリスのアンソーンとドイツのマインフリンゲンからの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。 ※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。

■受信に関するご注意

●自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。

●以下のときは、電波受信を行ないません。
・タイマー計測中のとき。
・バッテリーレベルが充電必要レベル（"LOW"や"CHG"点滅）のとき。
・リカバーマーク（RECOV）が点灯しているとき。

●自動受信中にボタン操作を行なうと、受信を中断します。

●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。

●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。

●本機は日本、アメリカ、イギリス、ドイツで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。

●電波受信を行なわないときは、平均月差±20秒以内の精度範囲で動きます。

●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。

●受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。

●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■こんなときには

1. 電波が受信できないのですが？

●電波の送信が中断していませんか。
電波時計が利用している標準電波（JJY）は、独立行政法人情報通信研究機構（NICT）により運営されておりますが、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。

●電波が受信できない地域にいませんか。
電波受信ができる地域は、「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。

●電波受信環境が悪い場所にいませんか。
電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行なってください（「使用場所について」参照）。

●ホームタイム都市が間違って設定されていませんか。
ホームタイム都市の設定が「電波の受信範囲の目安」に記載されている都市以外の場合は、電波受信を行ないません。「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

●自動受信設定がOFFになっていませんか。
「自動受信ON／OFFの設定」をご覧になり、自動受信設定をONに設定してください。

●自動受信を行なう時間帯（午前12・1・2・3・4・5時）に、時刻モードまたはワールドタイムモード以外になっていませんでしたか。
自動受信は時刻モードまたはワールドタイムモードでしか行なわれませんので、自動受信時間帯は他のモードに切り替えないでください。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれるのですが？

●電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないますが、時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がちょうど1時間進んでいるのですが？

●サマータイムの設定がONになっていませんか。「セットのしかた」をご覧になり、サマータイムの設定をOFFまたはAUTOにしてください。

4. 電波を受信したのに、時刻がくるっているのですが？

●ホームタイム都市の設定が東京（TYO）ではなく、外国都市に設定されていませんか。「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

5. 自動受信ON／OFFの設定ができないのですが？

●ホームタイム都市の設定が「電波の受信範囲の目安」に記載されている都市以外の場合は、自動受信ON／OFFの設定を行なうことができません。「セットのしかた」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

6. 自動受信は何時頃行なわれるのですか？

●自動受信は電波状況の良い夜間に行なわれます。夜間にお休みのときは、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

7. 手動受信のしかたは？

●電波モードのときにⒹボタン（右下）を約2秒間押し続けます。"RC"が表示され手動受信が開始されますので、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

8. 受信日時の確認のしかたは？

●電波モードで確認します。受信が成功して、時刻修正された月日と時分が2秒ごとに切り替わって表示されます。

★電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。
※本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

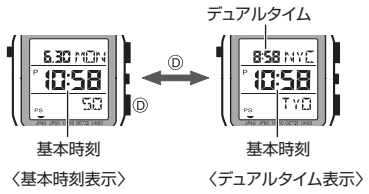
自動受信	ON	自動受信する
ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム	AT	電波受信による自動切替え

デュアルタイムについて

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒸボタンを押し、時刻モードにします。

デュアルタイムとは、現在時刻とは別に海外時刻などもう1つの時刻をセットできる機能です。
基本時刻とデュアルタイムを入れ替えることもできます。

※時刻のセットのしかたは、「セットのしかた」参照。
※基本時刻とデュアルタイムを入れ替えると、都市・時刻が入れ替わります。設定されている都市によって、電波を受信する局も変わります（「電波の受信範囲の目安」参照）。



■基本時刻とデュアルタイムの入替え

時刻モードのとき

Ⓓボタンを約3秒間押し続けます

➡確認音が鳴り、基本時刻とデュアルタイムが入れ替わります。

※基本時刻とデュアルタイムを入れ替えた後は、デュアルタイム表示になります。Ⓓボタンを押すと、基本時刻表示に戻ります。



CASIO

ワールドタイムの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい Ⓒ ボタンを押し、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界48都市（29タイムゾーン）の時刻を簡単に知ることができます。

※ワールドタイムは、基本時刻との時差にしたがい他の都市の時刻が自動的にセットされます。
※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。

ご注意

ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

* セットについては「セットのしかた」参照。

■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが切り替わります。
※Ⓓ ボタンを押し続けると早送りします。



■サマータイム（DST）について

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムのON／OFF設定

準備：ワールドタイムモードのとき、Ⓓ ボタンを押して、設定したい都市を選びます。

Ⓐ ボタンを押します



➡Ⓐ ボタンを押すごとにサマータイムのON／OFFが切り替わります。
※サマータイムがONのときは、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。
※各都市ごとにサマータイムを設定することができます。
※ホームタイムで設定している都市をサマータイムONにしたときは、ホームタイム（基本時刻）もサマータイムONになります。

■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
PPG	−11	パゴパゴ	STO	+1	ストックホルム
HNL	−10	ホノルル	ATH	+2	アテネ
ANC	−9	アンカレジ	CAI	+2	カイロ
YVR	−8	バンクーバー	JRS	+2	エルサレム
LAX	−8	ロサンゼルス	MOW	+3	モスクワ
YEA	−7	エドモントン	JED	+3	ジェッダ
DEN	−7	デンバー	THR	+3.5	テヘラン
MEX	−6	メキシコシティ	DXB	+4	ドバイ
YWG	−6	ウィニペグ	KBL	+4.5	カブール
CHI	−6	シカゴ	KHI	+5	カラチ
MIA	−5	マイアミ	DEL	+5.5	デリー
YTO	−5	トロント	DAC	+6	ダッカ
NYC	−5	ニューヨーク	RGN	+6.5	ヤンゴン
CCS	−4	カラカス	BKK	+7	バンコク
YHZ	−4	ハリファックス	HKG	+8	香港
YYT	−3.5	セントジョンズ	BJS	+8	北京
RIO	−3	リオデジャネイロ	TPE	+8	台北
RAI	−1	プライア	SEL	+9	ソウル
LIS	+0	リスボン	TYO	+9	東京
LON	+0	ロンドン	ADL	+9.5	アデレード
MAD	+1	マドリード	GUM	+10	グアム
PAR	+1	パリ	SYD	+10	シドニー
ROM	+1	ローマ	NOU	+11	ヌーメア
BER	+1	ベルリン	WLG	+12	ウェリントン

※この表は2007年6月現在作成のものです。
※この表の時差は協定世界時(UTC)を基準としたものです。

アラーム・時報の使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい Ⓒ ボタンを押して、アラームモードにします。

アラームモードでは、時分を設定でき、設定した時刻になると10秒間電子音が鳴ります。
また、毎正時（00分）に時報を鳴らすこともできます。

■アラーム時刻のセット

1. セット状態にする

アラームモードのとき

Ⓐ ボタンを押します



➡「時」が点滅します。
※ アラームマークが点灯して、自動的にアラームONになります。

2. セット箇所を選ぶ

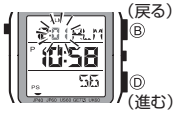
Ⓒ ボタンを押します



➡Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が「時」⇔「分」で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。

3. 点滅箇所をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。
※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

2.〜3.の操作を繰り返して、アラーム時刻をセットします。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。
※ 点滅表示のまま2〜3分間すると、自動的に点滅が止まります。

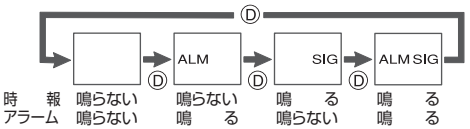
■アラーム・時報のON／OFF設定

アラームモードのとき

Ⓓ ボタンを押します



➡Ⓓ ボタンを押すごとにアラームマークと時報マークが点灯／消灯を繰り返します。
※それぞれのマークが点灯しているときがONとなり、アラーム・時報が鳴ります。



■鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

■モニターアラーム

アラームモードのとき、Ⓓ ボタンを押し続けると、押し続けている間アラーム音が鳴ります。

タイマーの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい Ⓒ ボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマーは１分単位で24時間までセットできます。セットした時間を経過（タイムアップ）すると10秒間の電子音が鳴ります。
また、タイムアップ後も自動的に計測を繰り返すオートリピートタイマーとしても使えます。

■ タイマー方法について

本機のタイマーには以下の２種類があり、使い方に合わせてお好きな方を選ぶことができます。

* タイマー方法の選び方については、「タイマーのセット」参照。

●リピートタイマー（繰り返し計測）

タイムアップすると、計測が止まります。約10秒後にタイマー時間表示（計測リセット状態）に戻ります。

●オートリピートタイマー(自動繰り返し計測)

タイムアップしても、計測ストップするまで自動的にタイマー時間に戻り、繰り返し計測を行ないます。

※繰り返し計測は合計８回行なうと、自動的に計測がストップします。

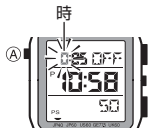
■ タイマーのセット

1. セット状態にする

タイマーモード（計測リセット状態）のとき

Ⓐ ボタンを押します

➡「時」が点滅します。

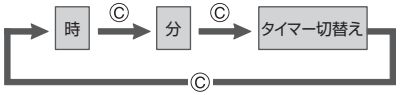


2. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡ Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。

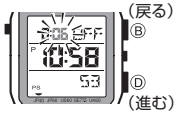




3. 点滅箇所をセットする

★「時」「分」セットのときは…

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します



➡ Ⓓ ボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。

※ タイマー時間を24時間に設定するときは、表示を“0：00”にします。

★「タイマー切替え」セットのときは…

Ⓓ ボタンを押します



➡ Ⓓ ボタンを押すごとにオートリピートタイマーとリピートタイマーが切り替わります。

※ ONにするとオートリピートタイマーになり、OFFにするとリピートタイマーになります。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま２～３分間すると、自動的に点滅が止まります。

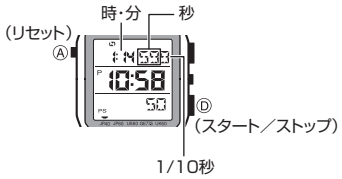
※ オートリピートタイマーを ON にすると、オートリピートマーク “↻” が点灯します。

■ タイマーの使い方(減算計測のしかた)

Ⓓ ボタンを押します

➡ Ⓓ ボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。

※計測は 1/10 秒単位で行ないます。



★計測ストップ後 Ⓐ ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります（タイマー時間にリセット）。

★計測中または計測ストップ後に Ⓓ ボタンを約２秒間押し続けても、計測前の表示に戻す（タイマー時間にリセット）ことができます。

★ロスタイムがあるときは、Ⓓ ボタンでストップ後、もう一度 Ⓓ ボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を始めます。

■ タイムアップになると

セットした時間を経過すると、10秒間電子音が鳴り、タイムアップを知らせます。

■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

ストップウオッチの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがい Ⓒ ボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

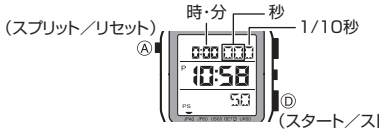
ストップウオッチは 1/10 秒単位で 23 時間 59 分 59 秒 9（24 時間計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に０に戻って計測し続けます。

■ 計測のしかた

ストップウオッチモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡ Ⓓボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。



★計測中に Ⓐ ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続ける**スプリット計測**となります（スプリットマーク“SPL”点灯）。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。

★計測ストップ後 Ⓐ ボタンを押すと、計測値が０に戻ります（リセット）。

★計測中または計測ストップ後に Ⓓ ボタンを約２秒間押し続けても、計測値を０に戻す（リセット）ことができます。

●通常計測

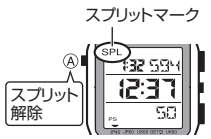
Ⓓ スタート → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

＜積算計測＞
ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずにⒹボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓓ スタート → Ⓐ スプリット → Ⓐ スプリット解除 → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

＜スプリット表示中＞



●１・２着同時計測

Ⓓ スタート → Ⓐ １着ゴール（１着タイム表示） → Ⓓ ２着ゴール → Ⓐ ２着タイム表示 → Ⓐ リセット

ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域（都市）や時刻・カレンダー等を合わせることです。

※ホームタイムデータのセットや修正は時刻モードで行ないます。

※基本時刻とデュアルタイムの二つの時計をセットすることができます。

※パワーセービング機能のON／OFF設定も以下の操作で行ないます。

■ セットのしかた

1. セットしたい時計を選ぶ

時刻モードのとき

Ⓓボタンを約3秒間押し続けます

➡基本時刻とデュアルタイムが入れ替わります。セットしたい時計を基本時刻にします。

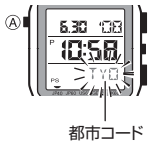
※ 下段に表示されている時刻が基本時刻（ホームタイム）です。



2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを押します

➡都市コードが点滅します。



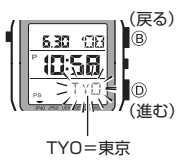
3. ホームタイム都市を選ぶ

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに都市コードが進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。本機をお使いになる地域（都市）を選びます。

*「都市コード一覧」参照。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りができます。



4. 「サマータイム設定」にする

Ⓒ ボタンを押します

➡サマータイムの切り替えになります。



5. サマータイムを設定する

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。



● AT（AUTO） 電波受信により、自動的にサマータイムのON／OFFが切り替わります。
● OFF サマータイムは OFF になります（通常時間）。
● ON サマータイムは ON になります（夏時間）。 ※セット完了後、DSTマークが点灯して、通常の時刻より 1 時間進みます。

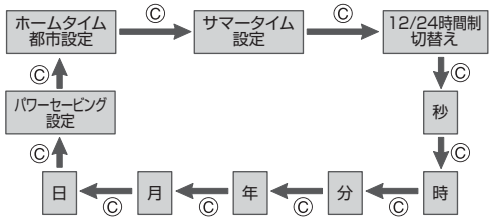
※ホームタイム都市が受信機能対応都市（「電波の受信範囲の目安」参照）以外のときは、「OFF」⇔「ON」で表示が切り替わります。

6. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動します。設定したい箇所を点滅させます。





7. 点滅箇所をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ または Ⓑ ボタンで点滅箇所をセットします。

a.「12/24 時間制切替え」のときは…

Ⓓ ボタンを押すごとに12時間制表示“12H”と24時間制表示“24H”が切り替わります。



b.「秒」セットのときは…

Ⓓ ボタンを押すと「00秒」からスタートします。

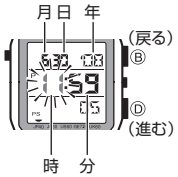
※秒が 00 ～ 29 のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります。（時報は「時報サービス 117 番」が便利です）



c.「時」「分」「年」「月」「日」セットのときは…

Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りができます。



d.「パワーセービング設定」のときは…

Ⓓ ボタンを押すごとにパワーセービング機能のON／OFFが切り替わります。

※パワーセービング機能を ON にすると、セット完了後、パワーセービングマークが点灯します。



Ⓒ ボタンを押して点滅箇所を移動させ、Ⓓ または Ⓑ ボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのとき、午前／午後（P）または 24 時間制にご注意ください。

※「年」は ’00（2000 年）～’99（2099 年）の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

8. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。